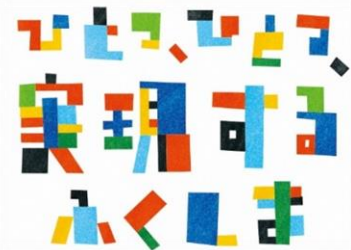


(第 1 回福島県総合教育会議資料)

# 震災の記憶と教訓の継承について



令和 3 年 7 月 2 6 日  
義務教育課  
高校教育課



# 震災の記憶と教訓の継承について（実践事例：小中学校）

## 【西郷村立羽太小学校】

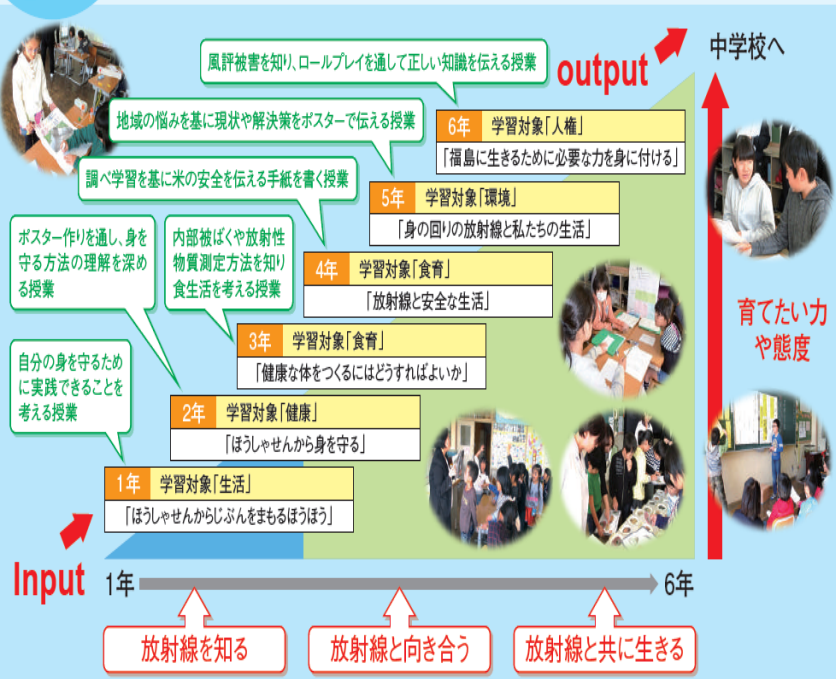
- 小学校6年間を通して、発達段階に応じた「放射線を知る」「放射線と向き合う」「放射線と共に生きる」の3つの大きなテーマを定めて、生活科と総合的な学習の時間の学びをつなぎ、系統的に子どもたちに、自ら考え、判断し、行動する力を育てる。

12 小学校全学年 6年間の系統性を明確にした「計画カリキュラム」

カリキュラム  
マネジメント  
～6年間の学びを  
結んで～

自ら考え、判断し、行動する力を育成する  
問題解決型の授業～生活科・総合的な学習の時間を通して～

西郷村立羽太小学校(児童数67人)



## 【会津若松市立行仁小学校】

- 震災の経験等を基にして作成した「ふくしま道徳教育資料集」等を使用して、風評被害やいじめについて考える道徳の授業を充実する。

4 会津若松市立行仁小学校(児童数300名)

私たちの生活向上プロジェクト思いやりを行動で(思いやり、親切)

小学校4年  
[道徳]

福島県が置かれている状況や放射線について正しく理解し、  
風評被害やいじめについて考える道徳の授業



電子黒板を活用し、震災当時を映像などで振り返る。

心ない言葉をかけられた避難児童の気持ちを考える。

自分がその場にいたら、どのような行動をとるか考える。

### <震災当時の記憶がほとんどない子ども達の実態に合わせた放射線学習>

- ① 環境創造センター(コミュタン福島)の見学学習(8月)
- ② 東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故についての調べ学習(8,9月)
- ③ 専門家を招いた放射線に関する学習(9月)
- ④ 避難生活を送る児童の実話をもとに、思いやりについて考える道徳の授業(9月)
- ⑤ 放射線学習を通して、心の健康について考える学級活動(12月)



授業で  
使用した  
ワークシート

# 震災の記憶と教訓の継承について（実践事例：小中学校）

## 【 いわき市立江名中学校 】

○ 地域を知り、地域に根差した防災学習を展開し、地域の防災を支える知識と技能、自覚を育てる。

### 3 いわき市立江名中学校(生徒数162名)

中学校  
全学年

地域との関わりに目を向けさせる  
外部機関と連携した防災学習の展開(津波災害・原子力災害)



いわき市消防本部  
いわき市水道局  
いわき市危機管理課



日本赤十字社福島県支部  
小名浜赤十字奉仕団



自衛隊福島地方協力本部

江名中学校  
自助・共助・公助

原子力安全研究協会(環境省)

福島県危機管理課  
福島県いわき建設事務所

熊本大学  
生命資源研究・支援センター

福島大学  
うつくしまふくしま未来支援センター

学区内地域住民・保育所

地域企業  
(防災非常食の研究開発)

#### 継続性のある防災教育の進め方の提案

- 学校の立地環境の把握
- 保護者・地域住民の防災意識の把握
- 教育課程への位置付け(時数等)
- 継続可能な学習内容の検討
- 子どもの防災意識の実態把握(事前・事後アンケート)
- 目指す子ども像の設定(学校経営・運営ビジョン)
- 各教科等との関連(年間指導計画に記載)
- 外部機関との連携(詳細な打合せ)

### 実践11 地域の活動に貢献しよう

対象 各学年 (10分間)

- 主な内容
- ① 近隣保育所が行う津波災害避難訓練への参加
  - ② 保育所職員の補助
  - ③ 避難する幼児の介助



〈1・2学年の取組〉



紙芝居(環境再生プラザ提供)の読み聞かせ



環境再生プラザの方による解説

# 震災の記憶と教訓の継承について（実践事例：高等学校）

## 【船引高校】

地域復興～船高アクティブラーダー育成プロジェクト～

- 東日本大震災・原発事故で避難を余儀なくされた都路地区の方々と交流し、「過去・現在・未来」を「知って」「聞いて」「見て」「まとめて」、それを他県の高校生に伝え交流
- さらに自分たちの考えを深め、地域のリーダーとしての資質・能力を育てる

都路小学校との交流



## 【ふたば未来学園高校】

- 困難な課題が山積する現実社会での課題解決型学習、アクティブ・ラーニングを中心にして、新しいタイプの授業を展開。街でフィールドワークをしたり、議論したり、各教室に置かれた電子黒板も活用しながら、生徒が動く授業を展開
- 双葉郡の中学校などと連携し、困難な課題が山積する地域の未来を切り開く「ふるさと創造学」を展開

長崎南高校と交流  
震災や原爆の被害などについて



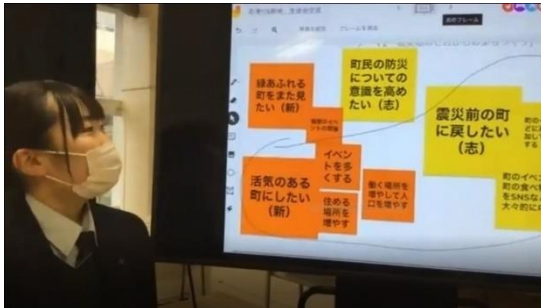
学校設定科目「地域創造と人間生活」における演劇

## 【新地高校】

おもひの木プロジェクト

- 2017年3月11日「おもひの木」植樹式を実施
- 地域の方々から震災当時の話をうかがい、自分たちの被災経験などとともに震災を後世に伝える、語り部活動などを実施

宮城県志津川高校と震災・復興に関する意見交換



- 復興に向けて地域が抱えている課題を調査し、その課題を演劇の台本にまとめて表現する
- 地域における復興に向けたありのままの姿や悩みを持ち帰り、議論しながら復興のための核心的な課題を見つけ出す
- 演劇を通して「多様な価値観を多様なまま理解する力」、「多様な価値観の共存」に向けて生徒が思考を深める
- ふくしまを正しく伝えるための一つとしての演劇
- 生徒は発見した課題や学びを、2年次から実施する課題研究を通じて探究する



# 今後の取組について

## 【現状と課題】

東日本大震災から10年が経過

- 震災の記憶のない児童生徒が増加
- 震災の記憶が薄れ、継承されないことへの危惧
- 記憶を風化させることなく、次の世代に伝えて教訓とすることが必要
- 震災の教訓を、今後の防災・減災対策や復興に活用することが必要
- 震災の教訓の継承が学校や個人の取組であり、継承が途切れることへの危惧



## 【目標】

- 震災の記憶や教訓を伝承する組織的、継続的な仕組みの構築
  - 県全体で震災に関する課題探究活動の実施
- 課題探究活動で学んだ震災の教訓の異なる世代・他県・海外への情報発信  
(ホームページやオンラインも活用)

**高校生が自分のことばで、震災の記憶、ふくしまの今、ふくしまの未来を  
語るができるようになる**

# 今後の取組について

## 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業

福島における震災、復興、そして未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることでできる高校生を育成する。

この学びの過程で、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、県内外の高校生等との交流を通して、震災に関わる風化防止、風評払拭につなげる。

## 事業効果

- ① 大きな教育効果
- ② 風化防止
- ③ 風評対策

### 【高校生】

#### 震災の経験や教訓を聞き取る活動の実施

- 語り部を行っている方や復興に尽力している方を講師として、震災関連学習を実施（30校程度の高校で実施）
- 伝承館において、震災と復興に関連する研修を20校程度の高校で実施



#### 震災や復興に関連する地域課題探究活動の実施

- 「聞き取る活動」で学んだことを、地域課題探究学習に活かす。
- 異なる世代との交流の実施（先輩と後輩、高校生と小学生・中学生等）（30校程度の高校で実施）



#### 地域課題探究活動の成果の発信と地域課題探究活動の深化

- 地域課題探究活動の成果を様々なところで発表（地域のイベント、小中学校、市役所等）（30校程度の高校で実施）
- ふくしま高校生社会貢献活動コンテストへの参加
- 他県の高校生・海外の高校生等との交流（オンラインの活用）
- 伝承館において県内の高校生による語り部交流会の実施（30校程度の高校の代表が参集して実施）

### 【小・中学生】

#### リーフレットの作成（全ての小学生・中学生に配付）

- 震災を学び、風化を防止するための教育の実施



小学生・中学生が震災を学び、将来、語り部となる

### 【教員】

#### 教員研修会

- 伝承館において、各校から1名の教員が出席し、地域課題探究活動の指導のための教員研修会を実施

○ 様々な人との協働、フィールドワークの実施等により「課題が自分の課題となる」、「活動を自分の力で進められるようになる」、「社会参画の態度が育成される」

○ 在学中の語り部活動に加え、卒業後、他県に進学・就職する生徒が、進路先において、自分のことばで、震災の記憶、ふくしまの今、ふくしまの未来を発信